

# 北っ子 敷島北小学校だより

令和5年5月2日 文責 学校長 増坪広夫

## 大切なことは繰り返し伝えること

いよいよ待ちに待ったゴールデンウィークが始まりました。「連休になってうれしい」と喜ぶ反面、「学校が休みでしばらく友達や先生と会えなくて淋しい」と思う子もいると信じています。校長としては、学校が、すべての子にとっても、そういう場所になっているといいなと思います。

休みを迎えるにあたって、どの学級でも連休中の過ごし方や命の大切さ等について、あらためて担任から子どもたちに指導があったかと思います。昨年は観光船の痛ましい水の事故がありましたが、事件や事故などを耳にするたびにドキッとします。



「危ない場所には行かないでね」「約束した時間までには家に帰ってきてね」おそらく、多くの保護者の方が、こうしたことを毎日伝え、多くの子がそうした言いつけを毎日守っていることかと思えます。

しかし、中には「何度も言われなくても分かっているよ」という態度を見せる子もいるかもしれません。反抗期や発達上の理由でそうした態度をとってしまったとしても、大切なことは繰り返し伝えたいものです。「しつこく伝えること」も愛情であるような気がしてなりません。

## 悪意×善意 防犯教室

ゴールデンウィーク前の4月28日（金）に1年生を対象とした防犯教室（不審者対策）が行われました。講師として甲斐警察署の生活安全課の職員と敷島交番の警察官の4名に指導していただきました。驚いたのが、講師の方が1年生に「いかのおすし」の意味について質問すると、積極的に手を挙げて答えた子がたくさんいたことです。すでに御家庭や幼稚園・保育園等でしっかりと指導されていることに感心しました。



「いかのおすし」とは、子どもが知らない人に声をかけられたときに、被害にあわないようにするための行動を示した警視庁の考案による防犯標語です。1年生のみならず、全校児童すべてが実践できるようになってほしい内容です。

- ・「いか」=いかない(知らない人について行かない) ※危ないところへは行かない
- ・「の」=のらない(知らない人の車に乗らない) ※知らない人の誘いにのらない
- ・「お」=おおごえをあげる ※「助けて!」と大声をあげる
- ・「す」=すぐに逃げる
- ・「し」=しらせる(周囲の大人に知らせる)

不審者は悪意をもって善意を利用しようとしています。子どもたちは、知らない不審者から声をかけられて捕まえられそうになったときの対処方法などを、クイズやシュミレーションで体験学習しました。

状況によっては「ランドセルを犠牲にしてでも逃げる」ことも必要だと学びました。

# 全国学力・学習状況調査

4月18日(火)に全国一斉で「全国学力・学習状況調査」が実施されました。対象は6年生で、学力調査に係る教科は「国語・算数」の2教科です。

全国学力・学習状況調査は、文部科学省が日本全国の小中学校の最高学年(小学6年生、中学3年生)全員を対象として学力・学習状況の調査を目的として行う学力調査となっています。この調査は2007年より実施され、学力を問うだけでなく児童生徒の学習環境や生活環境のアンケート調査も行います。

教職員向けの雑誌で、こんな記事を目にすることがありました。同様の調査を世界の各国で行っているわけではないので一概に比べることはできませんが、日本の子どもの回答の特徴がここでは紹介されていました。印象的だったのは、わからない問題があったときに日本の子どもは「無回答」であるケースがとて高いということでした。これにはどんな意味があるのでしょうか。

- ・「難しそう」と感じたときにやることをあきらめてしまう。
- ・間違えることをいやがる。

よく「まちがい」や「失敗」は良くないことだと言われます。しかし、そこから「新しい発見」や「気づき」があれば、それは失敗とはいえないと思います。上手くいった時より、上手くいかなかった時の方が、多くの事を学ぶことを知っているからです。無回答からは何も生まれないので、何かしら「自分なりの答え」が書けるようになることを期待しています。



## 頭がいい×頭が強い

よく「頭がいい」ということを「頭の回転が速い」という意味で使っていますが、頭の良さというのは実はもう一つあって、それは頭が強いということです。

「頭が強い」とは、いったいどういうことを示すのでしょうか。

それは、ここでいう「頭が強い」というのは、【最後までとことん考え抜く】【簡単にはあきらめない】という集中力の度合いの高さをあらわしたものです。

「これはおかしい」「よくわからない」といったときに、そうした自分の疑問をいつも心のどこかに止めておき、諦めることなく考え続けられるという集中力の持ち主を「頭が強い」というわけです。



敷島北小学校では、家庭での学習時間として、【学年×10分+10分】を子どもたちに課しています。毎年積み上げていますが、まだ家庭での学習習慣がしっかりと身につけていない子もいることかと思えます。まずは、少しずつ少しずつ実践していくことが大切です。お家の方にはそういった目で家庭での学習を見守ってほしいと思います。親が子どもの代わりに学習することは出来ません。

親が出来るのは、まずは子どもが集中できるような環境を整えてやることです。「子どもがTVをみながら学習しているようなとき」「約束したゲームの時間をオーバーしているようなとき」には、親としてしっかりと叱ってあげてください。好きなTV番組もみるけれど、好きなゲームもするけれど、学年目標の時間くらいは集中するといったメリハリのある習慣をつけることが、何よりこの時期は大切であるような気がしてなりません。

集中すると同じ1時間でもその中の効率が大幅変わってきます。「寝食を忘れて打ち込む」という言葉がありますが、きっとそのくらい集中しないと大きな成果は成し遂げられないのかもしれないかもしれません。何事にも集中力をもって物事にあたれるような「北っ子」であってほしいと願っています。